

KENWOOD

【ケンウッド/日本】



クオリティを追求した彩速ナビの最上級モデル

ケンウッドのAV一体型ナビが『彩速ナビ』シリーズ。1月にデビューした2019年モデルでは『TYPE M』、『TYPE S』、『TYPE L』の3つのシリーズを用意し、クルマやニーズ、予算などに合わせて選べる豊富なラインナップを揃えている。

そんな中でも最上級モデルに位置づけられているのが『彩速ナビ TYPE M MDV-M906HDL』だ。ボディサイズは規格サイズの2DINよりも二回りほど大きく、トヨタ純正9型ナビに対応する車種に取り付けられる（最新の適合情報は同社ホームページに掲載）。上の写真は最新型のノアに装着したものだが、抜群のマッチングでインパネに自然に納まっている。洗練されたデザインとピアノブラック仕上げで高級感があるのも嬉しいところだ。

このモデルを目にして最初に気づくのが画面の見やすさや美しさだ。搭載される9型HDディスプレイは一般的なカーナビに採用されている7型WVGAディスプレイに比べると約1.7倍も大きくて2.4倍もの高解像度を実現し

ている。地図上の文字やアイコンがクッキリと見えるうえに、色合いも鮮やかだ。しかも透過表示などの緻密な表現も可能になっており、地図上にさまざまな表示を重ね合わせることが可能だ。つまり1つの画面でより多くの情報を見られるようになるわけ。

そして触れてみると驚かされるのが業界トップといえるほどのレスポンスの良さ。スマホ同様の静電式タッチパネルはスクロールやスケール変更がきわめてスムーズでもたつきは一切ないし、描画が途切れることもない。目的地検索や各種設定に利用するメニューの画面切り替えも素早くリズミカルに扱うことが可能だ。これはデュアルコアCPUを備えたジェットレスポンスエンジンⅢや独自のデータ圧縮技術・S3フォーマット、ケンウッドが歴代彩速ナビの開発で培ったノウハウによるもの。しかもHDパネルに合わせた高精細で情報量の多い地図データを使用していることを感じさせない。

インターフェースは新開発されたオーガニックGUI。走行中に刻々と変化するドライ

KENWOOD 彩速ナビ TYPE M MDV-M906HDL

●価格:オープン(実勢価格:14万円前後)
※実勢価格は本誌調べ



ブ情報を映し出すInfo画面ではルート情報や渋滞情報、天気予報（スマホ接続時）などが同時に見られ、運転に注意すべきポイント（合流、一時停止、速度など）を知らせてくれるドライブメッセージも展開。状況に応じて自動的にサイズが大きくなる機能も備えている。さらに再生中のAVソース情報もつねに表示が可能となっている。これらについてはドラッグ操作によってウィンドーサイズを変えることもできる。

ナビ性能では基本機能の充実に注目したい。ルートガイドはイラスト図などを豊富に

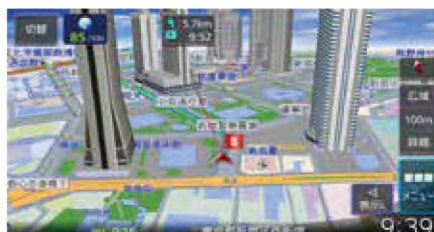
ナビもエンタメもトップクラスの実力



オーガニックGUIは地図画面の上に情報画面やAVソース画面を重ねて表示する。



主要な交差点や高速道路の分岐、都市高速の入口など迷いやすい場所はイラストで案内。



緻密で鮮やかな表現ができるHDディスプレイを搭載。地図もAVソースも美しく映し出す。



スマホと専用アプリを介してスマートループ渋滞情報や最新の天気予報を取得できる。



マイルートアジャスターを利用すれば自分好みのルート探索が可能になる。操作も簡単だ。



USBメモリーやSDメモリーカードに収録したハイレゾ音源(192kHz/24bit)の再生に対応。

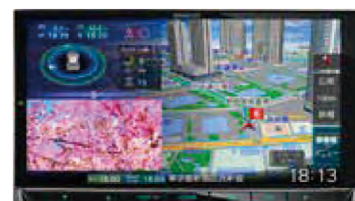


オプションには高画質なドライブレコーダーを用意。2台接続で前後同時録画も実現。

ラインナップにも注目



彩速ナビ TYPE M MDV-M906HDW
トヨタ車や日産車、ダイハツ車などに適合する200mmワイドサイズボディを採用。



彩速ナビ TYPE M MDV-M906HD
幅広い車種に装着が可能な汎用タイプで、2DINサイズボディを採用している。



CMOS-C740HD
彩速ナビTYPE M専用のHDリアビューカメラ。1/3.8型130万画素CMOSセンサーを搭載し、鮮明で美しい映像表示を行う。画角は水平180°/垂直103°と超広角仕様だ。

取り入れ、優れた視認性を実現。自分好みのルート探索が可能になるマイルートアジャスターやルート上の案内ポイントを事前に確認できる案内先読みガイドなども備えている。6軸慣性センサー、高精度測位環境補正プログラム、みちびき&グロナス対応、高測3Dジャイロなどによって自車位置測位精度が高められているのも見逃せない点だ。

エンタメ性能では多彩なフォーマットに対応するハイレゾ音源(192kHz/24bit)再生を実現。音質を維持したまま容量が削減できることで注目されている高音質フォーマット・MQAにもいち早く対応。広いエリアで安定した受信ができる広感度地上デジタルTVチューナーや1000以上の多彩なプログラムが聴き放題となるアプリ・SMART USENにも対応している。

ここまで解説してきたように、単体でも十分に満足できる性能を備えている本機だが、『スマート連携』と銘打つように、より使い勝

手を高める連携可能な先進のオプションアイテムが用意されている。

リアビューカメラの『CMOS-C740HD』は彩速ナビTYPE Mに合わせて開発された約130万画素センサー搭載のHD画質モデル。これまでのリアビューカメラとは比べ物にならないほどクッキリとした映像表示ができる。HDRに対応し、黒つぶれや白飛びを押さえた見やすい映像を生み出す。

また、ドライブレコーダーの『DRV-N530(フロント用)』と『DRV-R530(リア用)』との組み合わせでは、3M高画質の映像記録と再生ができてコントロールも可能。2台を接続すれば車両前後の状況を同時に捉えられ、アオリ運転や追突にも対応する。

ほかにも信号情報活用運転支援システムが利用できるETC2.0車載器『ETC-N7000』、ハイレゾ音源を臨場感いっぱいに味わえるハイレゾ対応スピーカー『KFC-XS1703/XS1603』などラインナップする。